2025 年度法学検定試験合格体験談

ベーシック〈基礎〉コース

日頃の学びの振り返りとして

私は大学で法律を学んでおり、授業の一環として法学検定ベーシックコースを受験しました。普段の講義では条文や判例を扱っていますが、自分の理解度を客観的に確認する機会は多くなかったため、この検定は日頃の学びを振り返る良い契機になりました。

試験勉強では、公式問題集を中心に取り組みました。試験範囲に沿って構成されており、基本知識を効率よく確認できる点が大きな助けになりました。問題を解きながら理解度を把握しやすく、学習の方向性をつかむうえでも有用でした。

また、私は単に問題を暗記するだけでは不十分だと考えていました。公式問題集には詳しい解説が付されているため、間違えた問題や迷った問題はその解説を丁寧に読み込み、どのような考え方で結論に至るのかを確認するようにしました。こうした学習を続けたことで知識が整理され、試験でも落ち着いて取り組むことができたと思います。

今回の受験を通じて、自分の習熟度を客観的に把握できたことは大きな収穫でした。今後も法律の学びを継続し、より深い理解を目指して取り組んでいきたいと考えています。

（ベーシック〈基礎〉コース・最優秀賞・清水友喜さん　20 歳・茨城県）

自身のミッションへの再始動

法学部でない大学を卒業してから久しい者です。大学では教養科目として法学入門を聴講したのみであり、法学そのものの考え方に触れたことは全くありません。就業後は常に未知の領域に触れることを習慣づけていたため、文理問わず多様な知識に触れ、その一つとして各個の法律に表面的に触れることがあったという程度です。

ここ数年、父親の介護と相続を経験しました。実際に介護に触れることでしか理解できないさまざまな困難を身をもって体験しました。同時に法令や制度を詳しく知っていれば、家族の負担を少しでも軽減できたのにと悩むことも度々ありました。時を同じくして、自身もキャリアの岐路に立つことになり、これまでの人生観が一変しました。このような事情もあり、自身を変えるために何か行動を起こしたいとの思いから、全く異なる分野である法律に関する学習を本格化させることとなりました。その学習の効果測定の一つとして、法学検定試験を受験しました。

受験の準備は、公式問題集を解くことが中心でした。法学入門の章は、これまで触れてこなかった法律を読解するうえでの常識（ルール）を整理することに努めました。いかなる分野においても、ルールを正確に理解することが確固たる芯を養成するためには不可欠な要素の一つであると考えていますが、反復継続するには忍耐が必要です。今回の試験はそれを実行する良い機会となり、有益な学習であったと考えます。各法の章は、まず解説を読み込んだのち、問題に関する条文や主要な判例に触れ、周辺の知識を補強することを意識しました。理由なき知識の暗記に頼らないように、自身の言葉で他者に説明できる状態に仕上げることを心がけていました。今回の検定では自身の実力からすれば出来過ぎかと思われますが、準備の方向は間違っていなかったことを示しているのではないでしょうか。

かつて「自身の行動によって、世の中を少しでもよくすることを実現する」を自身のミッションとして掲げたことを思い出します。その時からかなりの年月が経過していますが、自分の行動の核は未だに失われずに残っています。今後は、短くとも一歩ずつ確実に前進を続け、華やかでなくとも自身のミッションを果たすべく社会の一員として貢献していきたいと考える所存です。

この度は、栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。ありがとうございました。

（ベーシック〈基礎〉コース・優秀賞・Y・S さん　30 代）

法学検定を受験してわかったこと

私は現在、大学法学部の２回生ですが、大学に入学した当初から法律についての知見を深めたいと考え、講義を受講し、基本書を読み返すなどしていました。しかし、このように学習を積み重ねたことによって、どれほど法学に対する習熟度が高まっているのかを知る指標がなく困っていました。そんなタイミングで出会ったのが法学検定でした。そのため、法学検定について知った際に、非常に強く感激したことを覚えています。そして、受験に対して非常に前向きな気持ちで臨むことができました。

また、私が法学検定を受験したきっかけとしては、本学の法学検定受験に向けてのはたらきかけによる部分が大きいと感じています。私が最も印象強く感じたのは、本学の受験に対するサポートが非常に手厚かったということです。具体的には、講義の中で法学検定についての話題が取り上げられたり、きっちりと時間を確保した上で説明会が開催されたりと、受験に向けて十分な準備ができる環境が整っていたという点です。そして、法学検定の仕組みや受験方法といった初歩的な説明から、どのように勉強を進めればよいかといった対策の仕方まで、抜かりなく知ることができた点は、受験をする上で非常に心強かったです。また、説明会を通して、過去に本学の学生で個人賞を受賞された方がいることや、団体受験において本学が優秀な成績を残していることを知り、私もそのような良い成績を残したいと勉強の意欲を掻き立てられました。

しかし、１回生のとき試験問題集を見てみると、大学の講義で履修していない部分が多く出題されることに臆してしまい、受験することを躊躇してしまいました。だからこそ、出題される部分の大半を履修した状態で受験できる２回生では、絶対に良い成績を取ろうと決意しました。この経験のおかげで、部活やバイト等であまり勉強時間が確保できないときでも、スキマ時間を見つけて問題集に目を通すことができました。そして、この法学検定受験に向けての勉強を通して、目標を持って取り組むことの大切さを実感しました。

法学検定を受験したことは、私にとって非常に素晴らしい経験になりました。みなさんもぜひ受験してみてください。

（ベーシック〈基礎〉コース・団体賞・鈴木涼矢さん・南山大学）

法学部で学んだ証として

私が法学検定を受験しようと思った動機は、自分が法学部で学んだという証が欲しかったからです。法学検定は、法律についての試験であるため、普段大学で習っている法律科目を履修した公の証明になると思い、今回受験しました。また、大学で告知が行われていたため、周りにも同じように法学検定に取り組んでいる人が沢山おり、自分もチャレンジしてみようと思ったこともきっかけです。

勉強方法としては、公式問題集を購入し、ひたすらやり込みました。公式問題集以外の問題集や教科書は、特に利用していません。公式問題集を、まず一周取り組み、分からない単語があった際には、その都度調べました。解く度に正解か不正解の印をつけ、自分が苦手な問題や何度も間違えている問題がわかるように可視化していました。また、問題にとって重要な語句や学説には、蛍光ペンを使用するなどして、目立たせていました。そうすることによって、時間が無いときや、試験の直前などにそれらの問題に絞って、効率よく復習をすることができました。

今後の目標としては、来年ぜひスタンダードコースに挑戦したいと考えています。また、今回、ベーシックコースをエクセレント合格することができたので、スタンダードコースもエクセレント合格をねらいたいです。

（ベーシック〈基礎〉コース・団体賞・匿名・南山大学）

法学検定の学習を通して知識を深める

私が法学検定を受験するに至ったきっかけは、大学で対策授業があり、受験する事が推奨されていたからです。学んでいる法律の知識を定着させるのに最適な機会だと考え受験することを決めました。今回はベーシック〈基礎〉コースとスタンダード〈中級〉コースを併願して受験しました。スタンダードコースは、大学でまだ習っていない所も範囲に含まれており、最初は安易に理解することができず難しかったです。勉強方法については、先生から「問題集を繰り返しやれば合格ラインに届く」と言われていたので、問題集を繰り返し解くことを徹底しました。問題や解答でわからない箇所は、インターネットで調べたり、YouTube で言葉を検索して似た授業を見たりしていました。そこで得た知識を問題集に書き込み、何度も見返すようにしていました。実際に試験を受けて、特にスタンダードコースでは、問題集対策だけでは対応しきれない問題もあり、そこが難しいなと感じました。単にパターンを暗記するだけでなく、基礎の軸をしっかり固めることが重要だと痛感しました。法学検定の学習を通して知識を深める良い機会になったし、結果的に合格できたので本当に良かったです。この経験を他の資格試験の学びにも活かしていきたいです。

（ベーシック〈基礎〉コース・団体賞/スタンダード〈中級〉コース・団体賞・C・N さん・大阪経済法科大学）

しがない法学初心者の取組み

私は、8 月の夏休み頃に試験勉強に取り組み始めました。大学法学部の 1 年生の私は、当時法律を習い始めたばかりだったので、どの科目も入門的な内容しか勉強しておらず、刑法に至っては大学の講義で全く触れたことが無い状態でした。そんな法律初心者だった私は、「無理せず楽しむことを優先しよう」という気楽な気持ちで、先取りも踏まえ学習をスタートしました。

自身の取組みを振り返ると、毎日欠かさず勉強していたわけでもなく、かといって直前に詰め込んでいたわけでもなく、「最低でも 3 日に 1 回のスパンで参考書に触れる」「いつ取り組んでもいいから今週末までにこの分野を終わらせる」のような漠然とした目標のみを立てて、マイペースに勉強していた印象です。そんな漠然とした目標で勉強が進むのかと疑問に思われる方もいるかもしれません。そこで私は、法律のプロとして他者に貢献している未来の自分や、「やっぱり法律はいいなぁ」と貪欲に好奇心を満たし続けている自分の姿を想像することをまずは楽しみ、そうなりたいという願望をモチベーションにしていました。

具体的な勉強内容としては、私は問題集の中で自分が間違った部分や、確信をもって正解できなかった部分のみに焦点を当てて、最終的には自分で説明しながら正解できることを目標に取り組みました。間違っていた問題を正解できたときや、以前よりも確信をもって上手に説明できるようになったときに自分の成長を実感することができ、より勉強を楽しむことができました。

やはり何を学ぶ際も、興味を持って取り組むことや、自分の成長を実感したり、将来像を描いたりしながら取り組むことが、最も効果的なモチベーションの持続方法だと思います。今後の学習の際も、自身の興味関心や動機付けを振り返りつつ、学習過程における小さな楽しみを見つけ続けたいです。法学検定試験を通して、私は、学ぶことの面白さをあらためて味わうことができ、より法律に対する学習意欲を高めるきっかけを掴むことができました。このチャンスを無駄にしないように、これからも勉学に励みたいと思います。

（ベーシック〈基礎〉コース・グループ賞・匿名・岡山大学）

団体としての取組み――大阪経済法科大学

大阪経済法科大学法学部では、2023 年度以降、1 年生全員に法学検定試験ベーシック〈基礎〉コースの受験を推奨し、正課授業でも合格に向けた学修に取り組んでいます。その趣旨は、①憲法・民法・刑法・法学入門の法律基本科目の理解の定着、② 2 年次以降の専門科目の学修に向けた基礎知識の修得およびさらなる資格の取得、③合格体験を通じた学修意欲の維持・向上にあります。ベーシックコース試験の昨年度合格者が今年度はスタンダードコースを目指したことで、今年度はベーシックに加え、スタンダードでも合格者数団体 1 位を獲得することができ、本学の取組みが定着しつつあるのを実感できました。来年度以降も、法学検定試験をペースメーカーとしても活用させていただき、学部生の基礎知識修得に向けた取組みを継続してまいります。

（ベーシック〈基礎〉コース・団体賞/スタンダード〈中級〉コース・団体賞・大阪経済法科大学）

スタンダード〈中級〉コース

次の法律学習に向けた糧に

令和６年３月に地方公務員を定年退職後、不動産関係の国家資格を取得するため、４０年ぶりに民法を学びました。その際、長年、法律に縁遠かった私が驚いたのは、何度も大きな改正があったことです。基本法の改正は、社会の変化や時代の要請を反映するものだと思います。改正の背景には何があり、それがどう法改正につながったのか、こうした観点から、もう少し幅広く、そして深く法律を学びたいと思いました。法学検定を受験したのも、その励みとするためです。学習を進める中で、刑法や選択科目とした行政法の分野でも、やはり多くの改正があり、憲法においても、違憲立法審査に関する判例などで新たな考え方が示されていることを知りました。また、基本書を読み、改正等の背景・理由を確認することで、社会の変化に法律がどのように対応しようとしてきたのか、十分ではないにしろ、理解し、納得することができました。

優秀賞は全くの望外でしたが、さらにこれを糧として、法哲学や法思想史などの基礎法学も含め、法律を学び続けていきたいと思います。そして、この歳になっていまさら感もありますが、リーガルマインドを身に着け、社会や人々の考え方が変化していく中で、法律は、社会の分断、少子高齢化、地方の衰退、ＳＮＳの弊害などの今日的な課題にどう対応していくべきなのか……少々大袈裟になりましたが……まずは身近な問題から考えていきたいと思っています。

（スタンダード〈中級〉コース・優秀賞・石井謙次さん　62 歳・岡山県）

法学という最高の趣味との出会い

通常であれば旅行などの趣味を生きがいとしている方が多いと思います。私はある時から法学を学習することが趣味になりました。とても難しい法律を少しずつ理解し自分のものとすることが快感となり、最終的には本職である看護師の傍ら法学部まで卒業してしまいました。現在は司法予備試験・司法試験突破に向けて学習を続けていますが、モチベーションの維持はとても難しいと感じています。そこで出会ったのが法学検定でした。問題集の質が高く、解説もわかりやすく内容が網羅されているので自分にマッチした感じがありました。自分が行った勉強方法は、問題集メインで学習して追加で必要であれば基本書を読むスタイルで進めました。法学検定試験を通して知識の定着具合や苦手な分野の把握もできるため最高の学習ツールであると感じています。今回の試験では目標だったアドバンスト・スタンダードコースでのダブル excellent 合格を達成することができ、今まで以上に学習意欲が勢いづいたと感じています。これからは結果だけでなく、とにかく法学を楽しむことを大事して、最終目標達成に向け頑張りたいと思います。

（スタンダード〈中級〉コース・優秀賞・合田貴紀さん　34 歳・大阪府）

アドバンスト〈上級〉コース

自身の足跡を残すために

私が法曹になることを志したのは 2021 年 12 月のことです。ちょうど自身にとって５人目の子となる３つ子の娘が生まれたときでした。公務員として日々の業務をこなしつつ５人の育児にも追われる日々の中で、毎日ちょっとずつ司法試験の合格に向けて勉強を続けていますが、早くも４年が経ってしまいました。なかなか結果を出せていないのに、ただただ時間だけが過ぎてゆく。私の中には、そんなモヤモヤとしたどうしようもない「焦り」のような感覚がありました。

ある日、「今年は何か結果として残したい」と思った私は、インターネットで法律に関する試験を検索していると、「法学検定試験」があることを知りました。「試験日が予備試験の論文試験後か。タイミングが良いな。今年の１つの成果として残せるかも。」そう思い、すぐに受験を決意しました。

勉強に当たり、まずは問題集を購入しました。基礎はこれまでの勉強である程度できていたので、とにかく問題集に取り組むことにしました。問題に取り組む際には、誤答した問題について「なぜ間違えたのか」をしっかり分析することだけを意識しました。この点、問題集の解説が非常に丁寧でしたので、間違えた問題も理解しやすく、とても助かりました。

次に、この試験が非常に良い！と思ったポイントについて紹介したいのですが、司法試験の勉強ではほとんど取り組まない法哲学や法の歴史等に関する知識も学べる点です。これは、皆様のために役立つ法曹として活躍するためには、とても重要な知識だと思いました。

今回の法学検定試験の受験により、最終的に「合格」という１つの成果だけでなく、「優秀賞」までいただくことができたのは、家族をはじめ、会社の先輩、私と同じ夢を追いかける恩師など日頃から私を支えてくれる人の存在があったからこそです。改めて感謝を伝えたいと思います。

今回の受験で非常に大きな「足跡」を残すことができ、これまでの自分の勉強に大きな自信を持てました。今後も日々勉強を続け、「自信」を「法曹になれる」という「確信」へと変えられるよう着実に歩みを続けたいと思います。

最後に、このような貴重な執筆機会を与えてくださった法学検定試験関係者の皆様にも厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

（アドバンスト〈上級〉コース・優秀賞・藤井友気さん　32 歳・奈良県）

自分のペースで学修を

この度は思いがけず表彰頂くことになり、身に余る光栄と存じます。

以下私の受験体験等をお伝えします。

１　受験の動機

私の法学検定（アドバンストコース・スタンダードコース）の受験理由は主に３つです。

第一に、最新の法律学の知識を得るためです。私はおおよそ 40 年も前に法学部を卒業しましたが、法律は日進月歩であり改正や新しい判例に常に目を配る必要があります。毎年定期的に実施される法学検定を最新の法律に接する一つの機会としました。

第二に、曖昧になっている法律知識のブラッシュアップをするためです。かつて身に付けたはずの法律の知識や理解も驚くほど劣化します。そこで法学検定を利用して、かつての得た（はずの）知識の総点検を図っていました。

そして第三に、新たな法律の知識を得るためです。たとえば民事訴訟法や労働法など、学ぶ機会があったにも関わらず怠慢により学ばなかった法律について、法学検定の問題集等を通じて学びその成果を確かめる機会としました。

２　学習法

法学検定受験のための学習はいたってシンプルです。まず４月頃に当年度版の問題集が発刊されますので、それを入手し日々一定のペースで取り組みます。疑問点は定番のいわゆる基本書等で確認します。平素は日常業務がありますので、さほどペースは上がりませんが少しずつでも取り組むようにします。GW や８月の夏季休暇中など、時間に余裕のある時には進度を早めます。そして直前期には受験予定科目を集中的に学習しました。試験前夜はもちろん、試験開始直前までチェックしていました。試験終了の合図を耳にした時、「今年も無事終了した」というささやかな達成感を味わっていました。

３　法学検定のススメ

大学法学部を始め今日では法律学を学ぶ機会は少なからずあると思います。しかしその一方で大学の講義等は担当教員の裁量で進められるため、必ずしもその内容において一定の範囲、レベルが保たれているとは限りません。たとえば「憲法」という科目で単位取得したとしても、実際に憲法を一通り学修したといえるかどうかはまた別問題です。他方、法学検定は主要科目について、一定のレベルで出題される公的な試験です。大学等の講義や単位取得に加え、法学検定のような外部の公的な試験を契機に学修を補完するということには大きな意義があると思います。例えば大学 1・2 年でベーシックコース、2・3 年でスタンダードコース、３年生以上でアドバンストコースを目標にすることが考えられます。何より各々のペースで学修が進められるのが、法学検定試験のメリットだと思います。

以上私の受験体験が、これから受験される方の少しでも参考になれば幸いです。

（アドバンスト〈上級〉コース・優秀賞・M・Y さん　60 代・大阪府）

「再び」法学と精神医学の架け橋として

今回は栄えある賞に選出頂き誠にありがたく存じます。

私は現在、香川県の精神科病院「こころの医療センター五色台」で精神科医師として勤務している者です。元々は東京大学法学部にて司法試験を志しておりましたが叶わず医学部再受験に転向した過去があります。

精神科医としてある程度の年数を修養してきた身として、法学の勉強への思いが再燃して参り、昨年度ベーシック優秀賞に選出頂きました。その甲斐もあってか本業でも社会的問題の色彩が強い患者様の主治医を任せて頂く機会が増え、さらなる励みにと今回はスタンダード・アドバンストを併願受験した次第です。

試験対策としましては、当然公式問題集を解くことが中心にはなりますが、刑法に関しては司法書士対策の、それ以外の科目に関しては行政書士試験対策の市販書を購入のうえ、基礎知識の復習に努めました。また、公式問題集を解答する際にも、単に解いて終わるだけではなく、解説部分を「条文は緑マーカー、判例は青マーカー、それ以外の重要部分には赤線」とマイルールを設定して一貫性のある演習を心掛けました。昨年に付加する部分としましては、アドバンストでは労働法を選択致しました。法学部時代に水町勇一郎教授（当時准教授）の講義が非常に興味深かったこと、まだまだ未熟ながらも労働者として社会に還元できる立場にある者として労働環境にまつわる法知識を再度整理したかったことなどが選択動機です。具体的な対策としては、ワークルール検定の公式テキストと問題集を読み込んだうえでアドバンストの過去問に取り込み、安定して 9 割前後得点できるようになりました（本番でも満点でした）。

今回はスタンダード 70 点で 3 位、アドバンスト 46 点で 2 位と自分でも驚く運の強さを発揮することができました。本業である精神科医としての役割は充分果たしつつも、今回の栄誉に慢心することなく法学の学習を継続し実力をさらに向上させることで、微力ながら法学と精神医学の架け橋としての存在という独自の役割を担っていきたく存じます。

（スタンダード〈中級〉コース/アドバンスト〈上級〉コース・優秀賞・井手雅紀さん　40 歳・香川県）